# 千葉市感染症発生動向調査情報

2022年 第33週 (8/15-8/21) の発生は?

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

	報告のあった定点数		33週	32週	31週	30週
上段:患者数		小児科	18	12	18	18
		眼科	5	2	5	5
下段:	定点当たりの患者数	インフルエンサ・	28	16	28	28
「定	『点当たりの患者数」とは	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数

_		Ŧ				市	千葉県
定点	感 染 症 名	注意報	8/15-8/21	8/8-8/14	8/1-8/7	7/25-7/31	8/8-8/14
An.		<b>江</b>	33週	32週	31週	30週	32週
	RSウイルス感染症		8	11	33	21	237
	ハウノイルス心未近		0.44	0.92	1.83	1.17	2.06
	咽頭結膜熱		0	2	1	0	4
	"四块和山顶大河(		0.00	0.17	0.06	0.00	0.03
	   A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	2	2	3	13
	, 44 10 m (To b ) - 44 m 41 42 42		0.06	0.17	0.11	0.17	0.11
	感染性胃腸炎	↓	41	29	46	66	135
	<b>心</b> 不正凡加入	<b>.</b>	2.28	2.42	2.56	3.67	1.17
小児科	水痘		0	1	1	4	4
	7.1.1 <u>.1.1</u>		0.00	80.0	0.06	0.22	0.03
	手足口病	*11	86	117	198	170	518
	1,20,41	^ • •	4.78	9.75	11.00	9.44	4.50
	<b>伝染性紅斑</b>		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
	突発性発しん		6	4	8	10	25
			0.33	0.33	0.44	0.56	0.22
	ヘルパンギーナ		3	16	15	11	80
			0.17	1.33	0.83	0.61	0.70
	流行性耳下腺炎		0	0	0	1	1
			0.00	0.00	0.00	0.06	0.01
イン	インフルエンザ		0	0	0	0	4
フル	(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
眼			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
科 	流行性角結膜炎		0	1	0	0	3
			0.00	0.50	0.00	0.00	0.11
基幹定点	<b>クラミジア肺炎</b> (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	(脚脵火困は脚脵災を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	<b>感染性胃腸炎</b> (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
	(ログリイル人に限る)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患: 7,830 例 ※ 新型コロナウイルス感染症7,826例は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法	
結核	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出	
<b>市口</b>	男性	70歳代	IGRA検査等	伊毋	男性	40歳代	皿/月711件071突山	
_	-	-	-	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代-100歳代	病原体遺伝子の検出等	

<sup>-</sup> 第33週は、結核2例(97)、梅毒2例(26)、新型コロナウイルス感染症7,826例(118,942)の発生届があった。

<sup>※ ()</sup>内は2022年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第33週のコメント

### <感染性胃腸炎>

前週よりやや減少し2.28となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。2歳で最多。区別の発生状況は若葉区(5.50)で最多で、同区の6-11か月及び1歳で多く発生報告があった。

#### <手足口病>

前週より減少し4.78となり、流行発生警報開始基準値(5.00。以下「警報レベル」という)を下回ったが、流行発生警報終息基準値(2.00。以下「終息レベル」という)は上回っている。過去10年の同時期と比べると多め。1歳で最多。区別の発生状況は、若葉区(9.50)で最多。他に中央区(6.67)で警報レベルを上回っており、稲毛区(5.00)で警報レベルと並んだ。緑区(4.50)、花見川区(2.50)及び美浜区(2.25)で終息レベルを上回っている。中央区、花見川区、稲毛区及び若葉区では1歳、緑区及び美浜区では2歳で最も多く発生報告があった。

- 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。
- ・ 過去10年との比較グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2022.pdf

区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph ward2022.pdf